



## 平成30年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成29年8月8日

上場会社名 SDエンターテイメント株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 4650 URL http://www.sugai-dinos.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉住 実  
 問合せ先責任者 (役職名) 管理本部長 (氏名) 荒井 隆夫 TEL 011-241-3951  
 四半期報告書提出予定日 平成29年8月10日 配当支払開始予定日 ー  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：有（証券アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成30年3月期第1四半期の連結業績（平成29年4月1日～平成29年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第1四半期	1,887	1.6	△68	—	△109	—	△95	—
29年3月期第1四半期	1,857	8.5	△9	—	△50	—	△77	—

(注) 包括利益 30年3月期第1四半期 △95百万円 (—%) 29年3月期第1四半期 △77百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第1四半期	△10.62	—
29年3月期第1四半期	△8.89	—

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年3月期第1四半期	10,043	2,209	22.0	246.74
29年3月期	10,448	2,313	22.1	258.38

(参考) 自己資本 30年3月期第1四半期 2,209百万円 29年3月期 2,313百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	0.00	—	1.00	1.00
30年3月期	—	—	—	—	—
30年3月期(予想)	—	0.00	—	6.70	6.70

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 平成30年3月期の連結業績予想（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,600	3.8	450	138.7	300	472.8	200	884.9	22.77

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 有
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年3月期1Q	8,997,000株	29年3月期	8,997,000株
② 期末自己株式数	30年3月期1Q	42,988株	29年3月期	42,988株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年3月期1Q	8,954,012株	29年3月期1Q	8,729,612株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、[添付資料]3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	4
4. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(重要な後発事象)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済状況は、引き続き緩やかな回復基調が続きましたが、海外経済の不確実性等、依然留意が必要な状況で推移いたしました。

このような環境の下、当社の経営の基本方針である「皆様の『けんこう (KENKOU)』をつくり、『えがお (EGA)』と『かがやき (KAGAYAKI)』と『ありがとう (ARIGATOU)』を創造し続け、世界中に広めます。」のもと、経営の効率化を図り、一層の収益力の強化に取り組んでまいりました。

当期は、平成29年6月29日提出の有価証券報告書、第一部「企業情報」、第2「事業の状況」、3「経営方針、経営環境及び対処すべき課題等」(3)「中長期的な会社の経営戦略」に記載のとおり、フィットネス事業への成長投資の加速、並びにGAME事業への勝ち残り戦略等の実行あるいは準備に努めました。

その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は18億87百万円(前年同四半期比1.6%増)、売上総利益は15億8百万円(前年同四半期比0.3%増)、営業損失は68百万円(前年同四半期は同9百万円)、経常損失は1億9百万円(前年同四半期は同50百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失は95百万円(前年同四半期は同77百万円)となりました。

売上高につきましては、シネマ事業の好調や前連結会計年度より開始した放課後デイサービス及び認可外保育事業を行っている子会社の売上寄与などがあり増収、売上総利益は増益になりました。

しかしながら、販売費及び一般管理費が、「中長期的な会社の経営戦略」に記載しているとおり、第2四半期以降の持続的な収益拡大のための積極的な先行投資により増加し、営業損失並びに経常損失は前年同四半期と比べマイナス幅が広がりました。

また、親会社株主に帰属する四半期純損失は、企業主導型保育施設開設に伴う助成金(47百万円)の特別利益計上により、前年同四半期比マイナス幅は営業損失・経常損失より縮小しました。

当第1四半期連結会計期間より会計方針の変更に伴い「カウネット」事業における売上原価について売上高と相殺して表示する方法(純額表示)に変更し、遡及適用後の数値で前年同四半期比較を行っております。

当第1四半期連結累計期間における売上高をセグメント別に示すと次のとおりであります。

セグメントの名称	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	前年同四半期比(%)
GAME事業部(千円)	504,630	△6.7
フィットネス事業部(千円)	519,236	△1.8
ボウリング事業部(千円)	237,743	△2.0
施設管理事業部(千円)	319,249	9.7
(シネマ)(千円)	(256,464)	(11.9)
(その他)(千円)	(62,785)	(1.6)
その他(千円)	307,004	20.8
合計(千円)	1,887,864	1.6

(注) 1. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

2. 施設管理事業部の(その他)は、土地・建物の賃貸収入等の売上であります。

3. 施設管理事業部のセグメント内訳は、内部管理上採用している区分によっております。

#### (GAME事業部)

GAME事業部につきましては、新型クレーンゲーム機の大量導入効果により、プライズゲームジャンルの売上については前年同期を大きく上回り、好調に推移しました。

しかしながら、ネットキャッチャー事業の運営方法の見直しによる営業休止(平成29年6月末再開)の影響や自社施設活性化を目的とした「ディノスパーク白石店」(平成29年5月)の閉店(フィットネスジム及び複合ネットカフェへの事業転換)影響による減収などにより、売上高は5億4百万円(前年同四半期比6.7%減)となりました。

(フィットネス事業部)

フィットネス事業部につきましては、「プロテインバー」、「空中ヨガ」、「ホットヨガスタジオ」などの新規アイテムを、店舗特性を踏まえた上で、既存店舗への順次導入を進めました。ただし、これらの運営スタートが第1四半期後半であったことから、売上への影響は微少にとどまりました。昨年12月に移転リニューアルをした「津藤方店」は順調に推移するも、一部店舗において競合店の影響を受けたことや物販ラインナップが前期に比べてやや弱かったことなどから、売上高は5億19百万円(同1.8%減)となりました。

(ボウリング事業部)

ボウリング事業部につきましては、3期前より推進しているLTB(ボウリング教室)を拡大し、トーナメント、リーグへ繋げたことや当社専属のプロボウラーによるジュニア教室を開催し顧客増を図りました。また、併設のゴルフバーのリニューアルや投げ飲み放題企画の実施、団体予約獲得を主目的とした職域向けセールスマンの人員増による渉外活動の強化を行いました。

しかしながら、昨年9月に閉店した「ダーツバー」の影響などにより、売上高は2億37百万円(同2.0%減)となりました。

(施設管理事業部)

施設管理事業部につきましては、「シネマ」部門において、「美女と野獣」及び「名探偵コナン から紅の恋歌」等のヒット作の上映により入場者数が増加しました。また、前期より札幌劇場において1スクリーンの増設と本格的なカフェを併設し、飲食売上げが増加した効果などにより、売上高は2億56百万円(同11.9%増)となりました。「その他」に分類している賃貸部門においては、売上高は62百万円(同1.6%増)となりました。

(その他)

その他のカフェ事業等につきましては、内装や看板などの小規模なリニューアルを実施しました。また、介護事業及び通信テレマーケティング事業等を営む子会社グループについては、前期より事業を開始した認可外保育及び放課後デイサービスに加えて今期は企業主導型保育事業の売上が寄与したことなどにより、売上高は3億7百万円(同20.8%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は16億86百万円となり、前連結会計年度末に比べ4億86百万円減少しました。これは主に現金及び預金が4億98百万円減少したことによるものであります。固定資産は82億86百万円となり、前連結会計年度末に比べ87百万円増加しました。これは主に投資その他の資産が3百万円減少しましたが、成長戦略のための設備投資の追加により有形固定資産が91百万円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は、100億43百万円となり、前連結会計年度末に比べ4億4百万円減少いたしました。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は31億18百万円となり、前連結会計年度末とほぼ同額となりました。これは主にポイント引当金が5百万円増加しましたが、1年内返済予定の長期借入金36百万円減少したことによるものであります。固定負債は47億15百万円となり、前連結会計年度末に比べ2億99百万円減少しました。これは主に社債が2億34百万円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は、78億34百万円となり、前連結会計年度末に比べ3億円減少いたしました。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は22億9百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億4百万円減少しました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純損失95百万円によるものであります。

この結果、自己資本比率は22.0%(前連結会計年度末は22.1%)となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成29年5月15日付「平成29年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」にて公表した連結業績予想に変更はございません。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動  
該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用  
該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
(会計方針の変更)

(売上高の会計処理の変更)

従来、「カウネット」事業において売上原価に計上していた商品仕入高について、当第1四半期連結会計期間より、売上高と相殺して表示する方法(純額表示)に変更しております。

当該事業においては、顧客への商品の販売と同時に取引先より商品を仕入れる、いわゆる消化仕入であり、「売上高」及び「売上原価」を総額表示しておりましたが、今後の取引が増加する見込みが少ないと判断したことや国際的な会計基準の考え方においては、重要なリスクを負担しない取引にかかる「売上高」については、取引高でなく手数料のみの純額で表示すべきとされていること、また経営成績をより適切に表示するために行ったものであります。

この変更により、遡及適用を行う前と比べて、前第1四半期連結累計期間の売上高及び売上原価はそれぞれ136,959千円減少しておりますが、売上総利益、営業損失、経常損失及び税金等調整前四半期純損失への影響はありません。

## 3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,454,344	955,733
売掛金	355,269	336,959
商品	43,433	45,723
貯蔵品	82,276	94,102
その他	239,360	256,151
貸倒引当金	△1,272	△1,791
流動資産合計	2,173,412	1,686,878
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,153,244	3,209,050
土地	2,670,817	2,670,817
その他(純額)	927,010	962,526
有形固定資産合計	6,751,072	6,842,394
無形固定資産		
のれん	142,266	136,615
その他	79,543	85,239
無形固定資産合計	221,810	221,855
投資その他の資産		
差入保証金	922,483	930,576
その他	303,595	291,509
投資その他の資産合計	1,226,078	1,222,085
固定資産合計	8,198,961	8,286,335
繰延資産	76,407	70,647
資産合計	10,448,781	10,043,861
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	292,272	267,923
短期借入金	67,900	38,700
1年内償還予定の社債	979,200	953,200
1年内返済予定の長期借入金	555,423	518,864
未払法人税等	29,789	24,107
賞与引当金	-	6,654
ポイント引当金	16,608	22,128
その他	1,178,635	1,287,301
流動負債合計	3,119,829	3,118,880
固定負債		
社債	2,471,500	2,237,100
長期借入金	1,687,592	1,574,972
資産除去債務	161,800	164,796
その他	694,507	738,843
固定負債合計	5,015,399	4,715,712
負債合計	8,135,229	7,834,592

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	227,101	227,101
資本剰余金	1,935,305	1,935,305
利益剰余金	153,597	49,580
自己株式	△9,684	△9,684
株主資本合計	2,306,319	2,202,302
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7,232	6,966
その他の包括利益累計額合計	7,232	6,966
純資産合計	2,313,551	2,209,268
負債純資産合計	10,448,781	10,043,861



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
売上高	1,857,351	1,887,864
売上原価	353,311	379,659
売上総利益	1,504,040	1,508,204
販売費及び一般管理費		
給料	438,040	469,796
賞与引当金繰入額	17,468	6,654
退職給付費用	5,126	4,802
地代家賃	278,617	284,461
その他	774,099	810,540
販売費及び一般管理費合計	1,513,352	1,576,256
営業損失(△)	△9,311	△68,051
営業外収益		
受取利息	515	511
受取配当金	405	394
受取保険金	1,401	1,589
還付加算金	87	1,143
その他	1,789	893
営業外収益合計	4,200	4,532
営業外費用		
支払利息	19,969	18,167
支払手数料	12,000	7,054
その他	13,718	21,151
営業外費用合計	45,688	46,373
経常損失(△)	△50,800	△109,892
特別利益		
固定資産売却益	236	-
長期預り金戻入益	7,509	-
受取和解金	4,259	-
資産除去債務戻入益	1,594	-
新株予約権戻入益	366	-
補助金収入	-	47,274
特別利益合計	13,966	47,274
特別損失		
固定資産売却損	87	-
固定資産除却損	848	511
減損損失	13,851	669
特別損失合計	14,788	1,181
税金等調整前四半期純損失(△)	△51,621	△63,800
法人税、住民税及び事業税	8,872	17,538
法人税等調整額	17,100	13,723
法人税等合計	25,973	31,262
四半期純損失(△)	△77,594	△95,062
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△77,594	△95,062

(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)
四半期純損失(△)	△77,594	△95,062
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	360	△266
その他の包括利益合計	360	△266
四半期包括利益	△77,234	△95,329
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△77,234	△95,329
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。